JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	半導体サプライチェーンのグローバルな環境変化における日本企業の組織学習による適応について ―半導体企業A社のクロスボーダーM&A事例研究―
Author(s)	岡田，正樹
Citation	
Issue Date	2023-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	ETD
URL	http://hdl.handle.net/10119/18415
Rights	
Description	Supervisor:白肌 邦生，先端科学技術研究科，博士

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

要　旨

半導体の普及に伴い、産業の持続的な成長は、半導体サプライチェーンに大きく依存していると考えられている。そうした背景を伴って半導体メーカーは市場の動向を読み、顧客との強固な関係性構築により信頼性ある需要情報を把握し、将来の生産能力と足元での遅滞ない供給のバランスを取れる幅広い経営能力が求められる。顧客や自社の経営リソースがグローバルに分散し、プレーヤーや制度、経済状況など、目まぐるしく変化する環境下、日本の半導体メーカーもそうした変化に適応し堅牢かつ柔軟なグローバル組織運営能力が求められている。しかしながら、日本のグローバル組織運営に関しては、従来、本国の日本から派遣した出向者を通じての管理を主体とする、文化的なマネジメント・コントロールが採用されるケースが多く、そのため現地化の遅れにより優秀な現地人のリテンションに影響が出るなどグローバルリソースを有効に活用できているとは言えないとの指摘があった。その一方で、近年、日本企業によるクロスボーダーM&A の件数、金額とも顕著に増加しているとみられており、日本企業の姿勢に変化がみられるのは確かである。しかしながら、買収効果についての定量的な研究は見られるものの、買収した企業をいかなる経営スタイルによって運営し、どのように成果を上げているかについて組織学習の観点から分析された研究は少ない。本研究では、半導体企業 A 社が米国企業 B 社を買収した事例分析により、従来、日本的な組織慣行から本国の出向者による海外子会社経営に依拠してきた組織ルーティンを、どのような組織学習により現地人を主体とする組織ルーティンへと変革を行ったか、そのメカニズムを明らかにすることを目的とする。本研究は、日本企業が持続的な成長のために、どのようにグローバルな組織を変革し、環境変化に適応していくのか、実践的な視点からその方向性を示している。

キーワード

日本半導体企業、サプライチェーン、グローバル化、組織学習、組織ルーティン

Copyright © 2023 by Masaki OKADA